

平成28年度「高校生社会参加促進事業」の取組概要

番号	13	学校名	橿原高等学校
----	----	-----	--------

1. 取組名

白樫幼稚園・第5こども園交流事業

2. 活動内容



第5こども園については、1年生の5クラスが園を訪問し、手作りのお土産を手渡すなど昼食前の遊び、昼食の準備と一緒に昼食を食べることを通して交流した。また、こども園から本校に来た子どもたちに、1年生1クラスが対応し、家庭の授業で考えた保育計画に従って、生徒主体で保育を行った。今年度は、出会いのカード、おもちゃ作り、食育を兼ねたパネルシアターや障害物競走を実施した。

白樫幼稚園についても、本校の格技場で同様の取組を、生徒が主体となって行った。(左写真)

3. 成果と課題

(生徒の感想)

・給食の時、「おねえちゃん先生、みかんの皮むかれへんからむいて」と言われて、ついやってあげそうになったところを先生(保育士さん)が「自分でやりなさい」と言ったのを聞いて、「ああ、失敗・・・」と思いました。家庭科の授業で自分でやらせた方がいいと聞いていたのに、かわいくてつい手伝いそうになりました。

・初めて1歳児とふれ合ったので、やわらかさに驚きました。とてもふわふわしていました。困ったのは、子どもたちが一生懸命何かを伝えようとしているけど、何と言っているか理解できなかったことです。また、子どもたちが悪いことをした時、どう注意したらいいのかわかりませんでした。やっぱり保育士さんはそういうのが上手だな、プロだなと思いました。私は小さい子が苦手で、今日も無理って思っていたけど、意外にちゃんと接することができたことに驚きました。自分の新たな一面を知りました。

・僕は、障害物競走の時に走ってきた子を受け止める役をやりました。受け止めるだけで良かったのですが、すごく一生懸命走ってきている姿を見て、思わず抱き上げたらとても嬉しそうな顔をしてくれたので、子どもって抱っこされるのが好きなんだな、と思った。

(成果)

- ・交流をとおして、生徒が家庭科の授業で学んだことを改めて確認できた。
- ・子どもたちのストレートな反応から、いろいろなことを感じ取っている。
→教室での授業では伝えられない感性の部分を、子どもたちに磨いてもらっているように思う。
- ・異世代への理解が進んだ。
→施設設備の違い(子ども向けのイス、階段、トイレなど)から、子どもに対しどのような配慮が必要か、交流を通して自然に学ぶことができる。

(課題)

- ・時間の確保(より多くの時間を配当できれば、さらに生徒の成長が期待できる。)
- ・人手の確保(訪問時などの安全確保に、より多くの人手が必要。)